

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2020.6.29-7.5

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

135:1 ハレルヤ。主の御名をほめたたえよ。ほめたたえよ。主のしもべたち。

135:2 主の家で仕え、私たちの神の家の大庭で仕える者よ。

135:3 ハレルヤ。主はまことにいつくしみ深い。主の御名にほめ歌を歌え。その御名はいかにも美しい。

135:4 まことに、主はヤコブを選び、ご自分のものとされ、イスラエルを選んで、ご自分の宝とされた。

135:5 まことに、私は知る。主は大いなる方、私たちの主はすべての神々にまさっておられる。

135:6 主は望むところをことごとく行なわれる。天で、地で、海で、またすべての淵で。

135:7 主は地の果てから、雲を上らせ、雨のためにいなずまを造り、その倉から風を出される。

135:8 主はエジプトの初子を人から獣に至るまで打たれた。

135:9 エジプトよ。おまえのまっただ中に、主はしるしと奇蹟を送られた。パロとすべてのしもべらに。

135:10 主は多くの国々を打ち、力ある王たちを殺された。

135:11 エモリ人の王シホン、バシャンの王オグ、カナンすべての王国を。

135:12 主は彼らの地を、相続の地とし、御民イスラエルに相続の地として与えられた。

神をほめたたえようと、主の民に勤めている歌です。これを聞くときに、私たちの心は踊り、本当に心から賛美したくなるでしょう。特に自分自身が主によって救われたという、その経験があればなおさ

らです。イスラエルは主を賛美するとき、常にこのようにエジプトから救い出してくださった大いなるみわざを讃えました。

私たちも主の救いのみわざをもっと讃えましょう。全ての美しいものを造られた主であり、全てにまさって感動を与えてくださる主です。その主のすばらしさが自分自身の存在に関わるみわざで、そのすばらしさを表しておられるのです。賛美せずにはいられません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



135:13 主よ。あなたの御名はとこしえまで、主よ。あなたの呼び名は代々に及びます。

135:14 まことに、主はご自分の民をさばき、そのしもべらをあわれまれます。

135:15 異邦の民の偶像は、銀や金で、人の手のわざです。

135:16 口があっても語れず、目があっても見えません。

135:17 耳があっても聞こえず、また、その口には息がありません。

135:18 これを造る者もこれに信頼する者もみな、これと同じです。

135:19 イスラエルの家よ。主をほめたたえよ。アロンの家よ。主をほめたたえよ。

135:20 レビの家よ。主をほめたたえよ。主を恐れる者よ。主をほめたたえよ。

135:21 ほむべきかな。主。シオンにて。エルサレムに住む方。ハレルヤ。

主を讃えるその動機は、異邦の偶像とは全く違うからです。ある人々は混同しますが、天地宇宙を造られた神と、ただのモノにしか過ぎない偶像とは、正反対と言ってよいほどの違いです。

見ることも聞くこともできない偶像を、なぜ人は造ったり信頼したりするのでしょうか。それは「これと同じ」すなわち、その人も本当の意味で見たり聞いたりできないのです。

私たちは主に感謝すべきです。かつては本当の神を知ることのできなかつた者が、今は神を知り、神と親しく交わることさえできるのです。

エルサレムとは人々の中心地です。そこにいてくださるとは何と心強いことでしょうか。私たちも、自分自身の生活の中心に、生ける全能の神がいてくだるのだということを忘れないで生きましょう。そしてその事実を歌にするくらい、喜び楽しみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 水曜

詩篇

136:1 主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。

136:2 神の神であられる方に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。

136:3 主の主であられる方に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。

136:4 ただひとり、大いなる不思議を行なわれる方に。その恵みはとこしえまで。

136:5 英知をもって天を造られた方に。その恵みはとこしえまで。

136:6 地を水の上に敷かれた方に。その恵みはとこしえまで。

136:7 大いなる光を造られた方に。その恵みはとこしえまで。

136:8 昼を治める太陽を造られた方に。その恵みはとこしえまで。

136:9 夜を治める月と星を造られた方に。その恵みはとこしえまで。

136:10 エジプトの初子を打たれた方に。その恵みはとこしえまで。

136:11 主はイスラエルをエジプトの真中から連れ出された。その恵みはとこしえまで。

136:12 力強い手と差し伸ばされた腕をもって。その恵みはとこしえまで。

136:13 葦の海を二つに分けられた方に。その恵みはとこしえまで。

136:14 主はイスラエルにその中を通らせられた。その恵みはとこしえまで。

136:15 パロとその軍勢を葦の海に投げ込まれた。その恵みはとこしえまで。

136:16 荒野で御民を導かれた方に。その恵



みはとこしえまで。

136:17 大いなる王たちを打たれた方に。その恵みはとこしえまで。

136:18 主は力ある王たちを、殺された。その恵みはとこしえまで。

136:19 エモリ人の王シホンを殺された。その恵みはとこしえまで。

136:20 パシャンの王オグを殺された。その恵みはとこしえまで。

136:21 主は彼らの地を、相続の地として与えられた。その恵みはとこしえまで。

136:22 主のしもベイスラエルに相続の地として。その恵みはとこしえまで。

136:23 主は私たちが卑しめられたとき、私たちを御心に留められた。その恵みはとこしえまで。

136:24 主は私たちを敵から救い出された。その恵みはとこしえまで。

136:25 主はすべての肉なる者に食物を与えられる。その恵みはとこしえまで。

136:26 天の神に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。

ゴスペルクワイアなどでよくある、コール&レスポンスのパターンで賛美しています。どんなメロディーとリズムだったのか知りたいものです。こんな賛美を大会衆で歌ったら、さぞかし恵みがあふれたことでしょう。

主のなしてくださったみわざに対して、「その恵みはとこしえまで。」と、それが一回きりではなく永遠に続くのだと宣言しています。私たちも、過去の恵みを思い起こしながら、そのような主は永遠に生きておられるゆえに、恵みも永遠なのだ と確信しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 木曜

詩篇

137:1 バビロンの川のほとり、そこで、私たちはすわり、シオンを思い出して泣いた。
137:2 その柳の木々に私たちは立琴を掛けた。
137:3 それは、私たちを捕え移した者たちが、そこで、私たちに歌を求め、私たちを苦しめる者たちが、興を求めて、「シオンの歌を一つ歌え。」と言ったからだ。

137:4 私たちがどうして、異国の地にあって主の歌を歌えようか。

137:5 エルサレムよ。もしも、私がおまえを忘れたら、私の右手がその巧みさを忘れるように。

137:6 もしも、私がおまえを思い出さず、私がエルサレムを最上の喜びにもまさってたたえないなら、私の舌が上あごについてしまうように。

137:7 主よ。エルサレムの日に、「破壊せよ、破壊せよ、その基までも。」と言ったエドムの子らを思い出してください。

137:8 バビロンの娘よ。荒れ果てた者よ。おまえの私たちへの仕打ちを、おまえに仕返しする人は、なんと幸いなことよ。

137:9 おまえの子どもたちを捕え、岩に打ちつける人は、なんと幸いなことよ。

捕囚として虐げられているバビロニアで、その権力ある者たちがイスラエルの民を見下して、余興に故郷の歌でも歌えと命じた事実と、そのときの悲しみが歌われています。彼らが帰れない故郷をどれほど恋い慕っているかが分かります。

余興でシオンの歌を歌うなど、とてもできずに彼らが楽器を木に掛けて拒否をしたということです。そこで「泣いた」とあります。なんと悲しい描写でしょうか。彼らの悲しみは神様に従わなかった結果



です。いわば自分たちで招いたことなのです。それでも神様は、その悲しみの様子に心を留めてくださいます。このような歌が残されているということは、そこに神様の深い憐れみがあるからです。このような主の憐れみを、自分自身のための愛として覚えつつ、最終的には主に頼り、主に心を訴えましょう。主からの回復は、あのイスラエルに与えられたように、私たちの人生にもあたえられます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 金曜

詩篇

138 ダビデによる

138:1 私は心を尽くしてあなたに感謝します。天使たちの前であなたをほめ歌います。
138:2 私はあなたの聖なる宮に向かってひれ伏し、あなたの恵みとまことをあなたの御名に感謝します。あなたは、ご自分のすべての御名のゆえに、あなたのみことばを高く上げられたからです。

138:3 私が呼んだその日に、あなたは私に答え、私のたましいに力を与えて強くされました。

138:4 主よ。地のすべての王たちは、あなたに感謝しましょう。彼らがあなたの口のみことばを聞いたからです。

138:5 彼らは主の道について歌うでしょう。主の栄光が大きいからです。

138:6 まことに、主は高くあられるが、低い者を顧みてくださいます。しかし、高ぶる者を遠くから見抜かれます。

138:7 私が苦しみの中を歩いても、あなたは私を生かしてください。私の敵の怒りに向かって御手を伸ばし、あなたの右の手が私を救ってください。

138:8 主は私にかかわるすべてのことを、成し遂げてくださいます。主よ。あなたの恵みはとこしえにあります。あなたの御手のわざを捨てないでください。

詩篇は歌なので、そこには感動があります。ここに歌われているのは単に真理というだけでなく、詩人が心を動かした神様への思いがあるのです。そのしとつは、「私が呼んだその日に、あなたは私に答え…」という、神様の真実さにあるでしょう。こん



なにも神様が自分に親身になってくださるというのは、感動でしょう。

また「主は高くあられるが、低い者を顧みてくださいます。」ということ、「しかし、高ぶる者を遠くから見抜かれます。」ということも、まさに主の真実が表されています。だから主に信頼できるのです。主にごまかしは効きません。しかし私たちが本当に真実に歩むなら、主は「すべてのことを成し遂げてくださる」のです。

主の前に、真実に歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4日 土曜

詩篇

139 指揮者のために。ダビデの賛歌

139:1 主よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。

139:2 あなたこそは私のすわるのも、立つのも知っておられ、私の思いを遠くから読み取られます。

139:3 あなたは私の歩みと私の伏すのを見守り、私の道をことごとく知っておられます。

139:4 ことばが私の舌にのぼる前に、なんと主よ、あなたはそれをことごとく知っておられます。

139:5 あなたは前からうしろから私を取り囲み、御手を私の上に置かれました。

139:6 そのような知識は私にとってあまりにも不思議、あまりにも高くて、及びもつきません。

139:7 私はあなたの御霊から離れて、どこへ行けましょう。私はあなたの御前を離れて、どこへのがれましょう。

139:8 たとい、私が天に上っても、そこにあなたはおられ、私がよみに床を設けても、そこにあなたはおられます。

139:9 私が暁の翼をかけて、海の果てに住んでも、

139:10 そこでも、あなたの御手が私を導き、あなたの右の手が私を捕えます。

139:11 たとい私が「おお、やみよ。私をおおえ。私の回りの光よ。夜となれ。」と言っても、

139:12 あなたにとっては、やみも暗くなく夜は昼のように明るいのです。暗やみも光も同じことです。



神の全知と、神の遍在すなわちどこにでも居ることが表されています。それも、単に概念的な表現ではなく、実際に自分自身の体験や実感の中で歌われています。

このような神体験は、単に歌を作るためではなく、人生の宝です。このような主の偉大さを心に賛美しながら生きてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



139:13 それはあなたが私の内臓を造り、母の胎のうちで私を組み立てられたからです。

139:14 私は感謝します。あなたは私に、奇しいことをなさって恐ろしいほどです。私のたましいは、それをよく知っています。

139:15 私がひそかに造られ、地の深い所で仕組まれたとき、私の骨組みはあなたに隠れてはいませんでした。

139:16 あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。

139:17 神よ。あなたの御思いを知るのはなんとむずかしいことでしょう。その総計は、なんと多いことでしょう。

139:18 それを数えようとしても、それは砂よりも数多いのです。私が目ざめるとき、私はなおも、あなたとともにいます。

139:19 神よ。どうか悪者を殺してください。血を流す子どもよ。私から離れて行け。

139:20 彼らはあなたに悪口を言い、あなたの敵は、みだりに御名を口にします。

139:21 主よ。私は、あなたを憎む者たちを憎まないでしょうか。私は、あなたに立ち向かう者を忌みきらわないでしょうか。

139:22 私は憎しみの限りを尽くして彼らを憎みます。彼らは私の敵となりました。

139:23 神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。

139:24 私のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、私をとこしえの道に導いてください。

内臓や骨は、自分でも見ることのできないものです。それさえも主は何もかもご存知であるというのは、何か安心な思いがします。体調が悪いと見えない体の中が心配になるものですが、主はよく分かっておられるのです。

私たちは胎児のときから主に知られ、守られているのですから、何も心配いらぬのです。むしろ、主の御心になうかどうか重要です。単純に悪者への対処と自分自身へのケアを、主に願いまししょう。「とこしえの道に導いて」いただきましょう。自分の行っていることが、永遠の価値があるものであるように、主にからの指導をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

